

研修医・指導医リレーエッセー⑨



日々悩みながら進む道 —岡山赤十字病院での研修を通して—

岡山赤十字病院 初期研修医 北垣 舞奈



岡山赤十字病院初期研修医2年目の北垣舞奈と申します。兵庫県出身で島根大学を卒業しました。島根県も素晴らしいところでしたが、新幹線へのアクセス、天候、そして実家からの距離を考慮し、将来は岡山県を拠点にしたいと考え、当院で研修させていただいております。このような貴重な機会をいただき、大変光栄に思います。つたない文章ではございますが、温かい目でお読みいただければ幸いです。

岡山赤十字病院は岡山市内に位置し、多様な診療科を有する3次救急病院です。研修医にとって、様々な診療科をローテーションし、3次救急の現場を経験できることは大きな魅力です。さらに、救急で出会った患者さんが各診療科でどのような経過をたどるのかを見守ることができるのも、当院ならではの貴重な経験だと感じています。当直は内科と外科に分かれており、2年目になると内科当直での任務が増え、6年目以降の上級医の先生方と相談しながら、研修医2人で診療方針を決定します。自身の知識・経験不足を痛感する日々ですが、同時に成長の機会と捉えて奮闘しています。

研修医は毎年15名前後で、私の同期は岡山大学7名、香川大学5名、自治医大3名、島根大学2名の計17名です。研修医生活において、同期の存在は非常に大切だと日々実感しています。大学を卒業したばかりの右も左も分からなかった私にとって、気軽に相談し合い、共に学び、理解を深め合える同期の存在は非常に心強い支えとなりました。人付き合いが上手で仕事も早い尊敬できる同期ばかりです。このような素晴らしい仲間との出会いをくれた病院に感謝しています。

研修医の大きな任務の一つは、将来進むべき診療科を決定することです。まだ進路を決めていない同期も6割ほどいますが、私はその中でも特に悩んでいる一人です。診療科の選択は、自身の人生を左右すると言っても過言ではありません。医学部への進学を決意した時と同じくらい、重要な決断だと感じています。様々な診療科をローテーションし、多くの指導医の先生方からご指導いただく中で、私のような優柔不断な人間になりたい指導医の先生がたくさんいて大変困ります。素晴らしい先生方に囲まれて研修できていることに幸せを感じています。しかし、自分の理想医師像をこの先生のこの部分を真似して、あっちの先生のこの部分を真似して…というように欲張りに作り上げ、勝手に絶望していました。悩み抜いた末にたどり着いた結論は、「人生はハッピーであることが一番大切」ということです（悩むことに疲れてしまっただけなのかもしれません）。私は私にしかねないのだから、色々な先生方に憧れるのは良い



指導医の田岡先生と一緒に

けれど、先生方そのものになろうとするのは違う、という考えに至りました。また、多くの先生方から「興味のある診療科を選ぶべき」というアドバイスをいただきます。同期から各診療科の面白さについて聞くこともありますが、私はどの科をローテーションしていても面白いと感じてしまうため、興味のある科で絞ることができません。自分が本当に興味のある科を明確に言えないことがコンプレックスでしたが、逆に言えば、無限の可能性を秘めていると言えるのではないかと考えています。

研修医2年目の6月を迎えても、まだ進むべき診療科を決めかねている私ですが、温かく見守っていただけますと幸いです。

✧—● 岡山赤十字病院 —●✧

下の写真は、岡山県医師会主催の令和7年度「WELCOME研修医の会」に参加された岡山赤十字病院の研修医と實金^{みかね}健院長（前列右から3人目）。



※令和7年度「WELCOME研修医の会」の当日写真については、

• <https://www.okayama.med.or.jp/doctors/welcome.html>

• または、

検索

